

専念寺通信

十月号 (NO. 134)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

秋のお彼岸が終わり、朝晩の気温が低くなりました。彼岸の入りには空はまっさおな夏空で、雲のかたちも夏雲、そして彼岸のお中日を過ぎるといわし雲がたなびき、季節が秋に変わっていることを教えてくださいました。おかわりなくお過ごしですか。

☆秋の彼岸

今年彼岸の入りの20日の前に三連休があり、10日間にわたり、お墓参りの方がおみえになりました。玄関に記帳して下さった方の人数は223名、ご家族連れの檀家さまを思うと、実際においで下さった方の総数は500名か600名に昇るかと思われます。お中日には、あるお墓に午前と午後とで、4組のご親族がお参りにみえま

した。芳名帖を見て、「あっ、もうちょっと早く来れば会えた！」と。檀家さまのお墓には供花がいっぱいで、毎日、お線香の絶えることがありませんでした。ご高齢でお参りに来る檀家さまに思いきって年齢

をお尋ねしたところ、最高齢は93歳の男性で、毎年、ひとりで背筋を伸ばしていらっしゃいます。夏など「寝冷えをしないようにお過ごし下さい。」と私共をいたわってくださいます。次が90歳の男性で、この方はバイクでいらっしゃいます。今年は息子さんの運転する車で来寺

されました。赤ちゃん誕生の檀家さまにもずいぶんお会いしました。このあいだ生まれたお子さんがもう幼稚園、そして、新しく生後6か月の妹さんが。若いお母さんが自分のお母さんといっしょにお墓参りにいらしたり。親子三世代、

或いは四世代にわたって亡くなった方のために祈りにいらっしゃる……ということそのものが、本当に尊いことだと思いました。震災の募金箱に、ひきつづき募金してくださる方も多く、私共も寺として、長く、今年の大震災、そして原子力発電所の被害にあった私たちの国の同朋の皆さんのためにできることを何でもしていくつもりです。「ふんばろう日本」のチラシを、すべての『通信』に挟み込みました。パソコンが苦手な檀家さまは、パソコンが得意そうな親戚や知り合いの若者が来たら、つかまえて手助けをしてもらってください。できることをひとつずつでもやっていこうではありませんか。私共の小さな寺は、静かな、けれど力強い善意の方々に支えられているのだと、彼岸の明けの日に墓地を歩いて思いました。明けの日の墓地の美しさといったら！土にはささやかな花が咲いています。玉すだれも今年は可憐に開きました。鶏頭は濃い赤から薄いピンクまでさまざまです。彼岸花も咲きました。しだれ桜のもとに咲く一叢が左下の写真です。ほかに墓地のあちらこちらにも見られます。蝶が飛んできて、彼岸花にとまり、蜜を吸っています。そして、何より、それぞれのお墓に供えられた花の見事さ、それぞれの方が、亡くなった方のために選んだ花は、その思いの分だけ更に美しいのです。奥さまのための穏やかな色の花束、端正なたたずまいの百合や菊、色のトーンを整えた明るい花束……。専念寺は、心優しい檀家さまに恵まれた幸福な寺だ、とつくづく思った今年の彼岸でした。

平成23年10月1日 大黒

